

4次関数のグラフの接線と変曲点に関する性質について

みやはら としあき
宮原 敏明

§1. はじめに

入試問題を一般化したら、面白い結果が得られる場合がある。例えば、次の問題である。

「多項式 $f(x)$ で定義される曲線 $y=f(x)$ が直線 $y=g(x)$ に点 (s, t) で接するとは $f(x)-g(x)$ が $(x-s)^2$ で割り切れることであり、このとき $y=g(x)$ は $y=f(x)$ の (s, t) における接線である。曲線 $f(x)=x^2(x^2-2x-3)$ が直線 $g(x)=px+q$ と異なる2点 P, Q で接している。このとき p, q の値を求めよ。〔06 慶応大〕

与えられた曲線 $f(x)$ を一般の4次式にして、その性質を調べてみた。

§2. 2点で接する接線

4次関数 $f(x)=ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ ($a \neq 0$) のグラフに2点で接する接線を $y=px+q$ とおき、2接点の x 座標を α, β とすると、

$$(ax^4+bx^3+cx^2+dx+e)-(px+q) \\ =a(x-\alpha)^2(x-\beta)^2$$

が成り立つ。

$$ax^4+bx^3+cx^2+(d-p)x+(e-q) \\ =a\{x^4-2(\alpha+\beta)x+(\alpha^2+4\alpha\beta+\beta^2)x \\ -2\alpha\beta(\alpha+\beta)x+\alpha^2\beta^2\}$$

係数を比較すると、

$$b=-2a(\alpha+\beta) \quad \dots\dots①$$

$$c=a(\alpha^2+4\alpha\beta+\beta^2) \quad \dots\dots②$$

$$d-p=-2\alpha\beta(\alpha+\beta)a \quad \dots\dots③$$

$$e-q=a\alpha^2\beta^2 \quad \dots\dots④$$

である。

$$①から \quad \alpha+\beta=-\frac{b}{2a}$$

$$②から \quad \frac{c}{a}=(\alpha+\beta)^2+2\alpha\beta$$

$$\alpha\beta=\frac{1}{2}\left\{\frac{c}{a}-\left(-\frac{b}{2a}\right)^2\right\}=-\frac{b^2-4ac}{8a^2}$$

を得る。

よって、 α, β を解にもつ2次方程式は、

$$t^2+\frac{b}{2a}t-\frac{b^2-4ac}{8a^2}=0$$

であるから、

$$8a^2t^2+4abt-b^2+4ac=0 \\ t=\frac{-ab\pm\sqrt{a^2(3b^2-8ac)}}{4a^2} \\ =\frac{-ab\pm a\sqrt{3b^2-8ac}}{4a^2}$$

a の符号を考慮して、 $t=\frac{-b\pm\sqrt{3b^2-8ac}}{4a}$

これから、 $3b^2-8ac>0$ のとき、接点は2個ある。

③、④から $\alpha+\beta, \alpha\beta$ を消去して、

p, q を a, b, c, d, e で表す。

$$p=2\alpha\beta(\alpha+\beta)a+d \\ =2\left(-\frac{b^2-4ac}{8a^2}\right)\left(-\frac{b}{2a}\right)a+d=\frac{b(b^2-4ac)}{8a^2}+d \\ q=-a\alpha^2\beta^2+e \\ =-a\left(-\frac{b^2-4ac}{8a^2}\right)^2+e=-\frac{(b^2-4ac)^2}{64a^3}+e$$

となる。

よって、次の性質が成り立つ。

【定理1】

4次関数 $y=ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ ($a \neq 0$) について、 $3b^2-8ac>0$ が成り立つならば、異なる2点で接する接線が存在し、その方程式は、

$$y=\left\{\frac{b(b^2-4ac)}{8a^2}+d\right\}x-\frac{(b^2-4ac)^2}{64a^3}+e$$

である。

また接線の方程式の右辺を $g(x)$ とおくと、接点の座標は $(\alpha, g(\alpha)), (\beta, g(\beta))$ である。 $g(\alpha)$ の値は、計算することは出来るが、ただ複雑なだけで面白くない。

§3. 2個の変曲点における接線

4次関数 $f(x)=ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ について,

$$f'(x)=4ax^3+3bx^2+2cx+d \text{ より,}$$

$$f''(x)=12ax^2+6bx+2c \\ =2(6ax^2+3bx+c)$$

これから, $f''(x)=0$ とおくと,

$$x=\frac{-3b\pm\sqrt{3(3b^2-8ac)}}{12a} \quad (a\neq 0)$$

よって, $3b^2-8ac>0$ のとき, $f''(x)$ は2カ所で符号を変えるから, 変曲点は2個ある。

$$\gamma=\frac{-3b+\sqrt{3(3b^2-8ac)}}{12a},$$

$$\delta=\frac{-3b-\sqrt{3(3b^2-8ac)}}{12a}$$

とおくと, 変曲点における接線の方程式は,

$$y=f'(\gamma)(x-\gamma)+f(\gamma)$$

$$=f'(\gamma)x-\gamma f'(\gamma)+f(\gamma)$$

γ のような値を $f'(x)$ に代入するときは, 直接当てはめては駄目だと生徒に言っているの,

$f'(\gamma)=4a\gamma^3+3b\gamma^2+2c\gamma+d$ を $6a\gamma^2+3b\gamma+c (=0)$ で割ることにする。

$$f'(\gamma)=(6a\gamma^2+3b\gamma+c)\left(\frac{2}{3}\gamma+\frac{b}{6a}\right) \\ +\frac{8ac-3b^2}{6a}\gamma+\frac{6ad-bc}{6a} \\ =\frac{8ac-3b^2}{6a}\gamma+\frac{6ad-bc}{6a}$$

よって $y=f'(\gamma)x-\gamma f'(\gamma)+f(\gamma)$

$$=\left(\frac{8ac-3b^2}{6a}\gamma+\frac{6ad-bc}{6a}\right)x \\ -\gamma\left(\frac{8ac-3b^2}{6a}\gamma+\frac{6ad-bc}{6a}\right) \\ +\frac{24a^2d-12abc+3b^3}{24a^2}\gamma+e-\frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2} \\ =\left(-\frac{3b^2-8ac}{6a}\gamma+\frac{6ad-bc}{6a}\right)x+\frac{3b^2-8ac}{6a}\gamma^2 \\ +\frac{b(3b^2-8ac)}{24a^2}\gamma-\frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2}+e$$

$$\text{ここで } \gamma^2=\left(\frac{-3b+\sqrt{3(3b^2-8ac)}}{12a}\right)^2 \\ =\frac{(3b^2-4ac)-b\sqrt{3(3b^2-8ac)}}{24a^2}$$

であるから,

$$y=\left(-\frac{3b^2-8ac}{6a}\gamma+\frac{6ad-bc}{6a}\right)x+\frac{3b^2-8ac}{6a}\gamma^2 \\ +\frac{b(3b^2-8ac)}{24a^2}\gamma-\frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2}+e$$

$$=\left\{\frac{9b(b^2-4ac)-\sqrt{3(3b^2-8ac)^3}}{72a^2}+d\right\}x \\ +\frac{24a^2c^2+9b^2(b^2-4ac)-b\sqrt{3(3b^2-8ac)^3}}{288a^3}+e \quad \dots\dots(5)$$

もう一本の接線は, $y=f'(\delta)(x-\delta)+f(\delta)$ より,

$$y=\left\{\frac{9b(b^2-4ac)+\sqrt{3(3b^2-8ac)^3}}{72a^2}+d\right\}x \\ +\frac{24a^2c^2+9b^2(b^2-4ac)+b\sqrt{3(3b^2-8ac)^3}}{288a^3}+e \quad \dots\dots(6)$$

である。

ひたすら計算すると出るには出るが複雑なだけで, 面白い結果ではない。時間を掛けて計算したのに無常を感じる瞬間である。ただ, この2本の接線の交点は, ⑤, ⑥より y を消去すると,

$$\frac{2\sqrt{3(3b^2-8ac)^3}}{72a^2}x=\frac{2b\sqrt{3(3b^2-8ac)}}{288a^3}$$

から, $x=-\frac{b}{4a}$ である。

⑤より,

$$y=\left\{\frac{9b(b^2-4ac)-\sqrt{3(3b^2-8ac)^3}}{72a^2}+d\right\}\left(-\frac{b}{4a}\right) \\ +\frac{24a^2c^2+9b^2(b^2-4ac)-b\sqrt{3(3b^2-8ac)^3}}{288a^3}+e \\ =\frac{c^2}{12a}-\frac{bd}{4a}+e$$

したがって, 次の命題が成り立つ。

【定理2】

4次関数 $y=ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ ($a\neq 0$) について, $3b^2-8ac>0$ が成り立つならば, 異なる2つの変曲点が存在し, その2点における2本の接線の交点は $\left(-\frac{b}{4a}, \frac{c^2-3bd}{12a}+e\right)$ である。

変曲点における接線の方程式は, 無理式が避けられないが, 交点の座標は有理式である。

§4. 4次関数の2個の変曲点を結ぶ直線

2個の変曲点 $(\gamma, f(\gamma)), (\delta, f(\delta))$ を結ぶ直線の傾きは,

$$\frac{f(\gamma)-f(\delta)}{\gamma-\delta} \\ =\frac{a(\gamma^4-\delta^4)+b(\gamma^3-\delta^3)+c(\gamma^2-\delta^2)+d(\gamma-\delta)}{\gamma-\delta}$$

$$=a(\gamma+\delta)(\gamma^2+\delta^2)+b(\gamma^2+\gamma\delta+\delta^2)+c(\gamma+\delta)+d$$

ここで、解と係数の関係より、

$$\gamma+\delta=-\frac{b}{2a}, \quad \gamma\delta=\frac{c}{6a} \quad \text{であるから、}$$

$$\begin{aligned} \frac{f(\gamma)-f(\delta)}{\gamma-\delta} &= a\left(-\frac{b}{2a}\right)\left\{\left(-\frac{b}{2a}\right)^2-2\frac{c}{6a}\right\} \\ &\quad + b\left\{\left(-\frac{b}{2a}\right)^2-\frac{c}{6a}\right\} + c\left(-\frac{b}{2a}\right) + d \\ &= \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \quad \text{となる。} \end{aligned}$$

異なる2個の変曲点を結ぶ直線の方程式は、

$$y = \left\{ \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \right\} (x-\gamma) + f(\gamma) \quad \text{である。}$$

ここで、 $f(\gamma)$ を $6a\gamma^2+3b\gamma+c(=0)$ で割ると、

$$\begin{aligned} f(\gamma) &= (6a\gamma^2+3b\gamma+c) \\ &\quad \times \left(\frac{1}{6}\gamma^2 + \frac{b}{12a}\gamma + \frac{10ac-3b^2}{72a^2} \right) \\ &\quad + \frac{24a^2d-12abc+3b^3}{24a^2}\gamma + e - \frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2} \\ &= \frac{24a^2d-12abc+3b^3}{24a^2}\gamma + e - \frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2} \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned} y &= \left\{ \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \right\} x - \left\{ \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \right\} \gamma \\ &\quad + \frac{24a^2d-12abc+3b^3}{24a^2}\gamma + e - \frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2} \\ &= \left\{ \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \right\} x \\ &\quad + \left(\frac{24a^2d-12abc+3b^3}{24a^2} - \frac{b^3-4abc+8a^2d}{8a^2} \right) \gamma \\ &\quad + e - \frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2} \\ &= \left\{ \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \right\} x + e - \frac{10ac^2-3b^2c}{72a^2} \\ &= \left\{ \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \right\} x + \frac{c(3b^2-10ac)}{72a^2} + e \end{aligned}$$

となる。よって、次の性質が成り立つ。

【定理3】

4次関数 $y=ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ ($a \neq 0$) について、 $3b^2-8ac > 0$ が成り立つならば、異なる2個の変曲点が存在し、その2点を結ぶ直線の方程式は、

$$y = \left\{ \frac{b(b^2-4ac)}{8a^2} + d \right\} x + \frac{c(3b^2-10ac)}{72a^2} + e$$

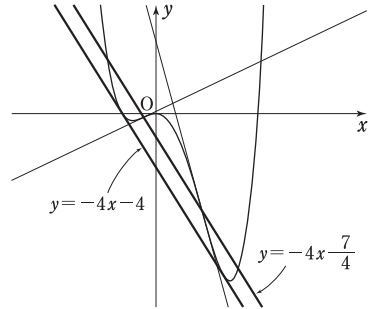
である。

また、定理1と定理3より次の性質が成り立つ。

【定理4】

4次関数 $y=ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ ($a \neq 0$) について、 $3b^2-8ac > 0$ が成り立つならば、異なる2点で接する接線と異なる2個の変曲点を結ぶ直線は平行である。

例 $y=x^2(x^2-2x-3)$ [06 慶応大]



変曲点における接線の方程式は、

$$y = (-4+3\sqrt{3})x + \frac{11-6\sqrt{3}}{4}$$

$$\text{変曲点} \left(\frac{1-\sqrt{3}}{2}, \frac{-15+8\sqrt{3}}{4} \right)$$

$$y = (-4-3\sqrt{3})x + \frac{11+6\sqrt{3}}{4}$$

$$\text{変曲点} \left(\frac{1+\sqrt{3}}{2}, \frac{-15-8\sqrt{3}}{4} \right)$$

2本の接線の交点は、 $\left(\frac{1}{2}, \frac{3}{4}\right)$ である。

また、異なる2点で接する接線の方程式は、

$$y = -4x - 4 \quad \text{2接点は} (-1, 0), (2, -12)$$

異なる2個の変曲点を結ぶ直線の方程式は、

$$y = -4x - \frac{7}{4}$$

《参考文献》

- [1] 数研通信 47号 2003年8月
3次関数の指導について(横山政道)
- [2] 佐賀県高等学校教育研究会数学会部研究集録
H21「一般化その2」(宮原敏明)

(佐賀県立鳥栖高等学校)